

坂口川河口埋立て進む

水俣港総合開発

排水トンネルが貫通

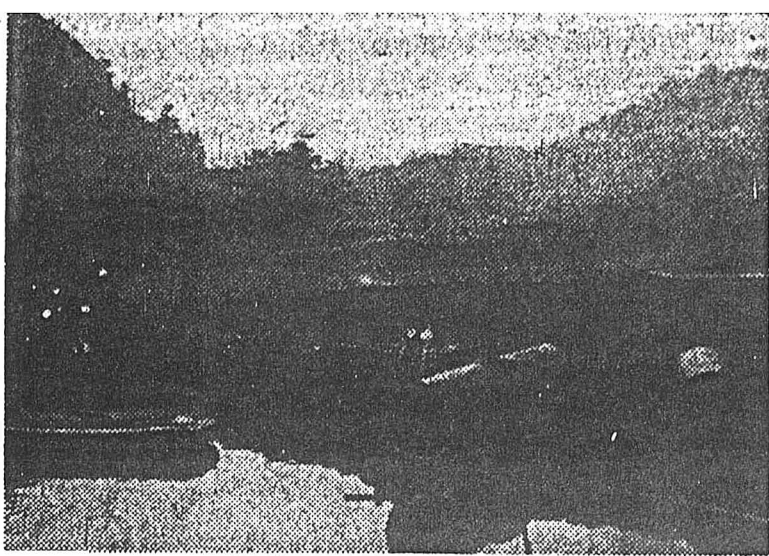
港内しゅんせつも再開

水俣港総合開発計画のひとつである坂口川の河口埋立て工事は順調な進行を見せ、流路つけかえの排水トンネルは二十七日貫通、二十八日午後三時から市、工事関係者などが参列して貫通式をあげる。

坂口川は国鉄鹿児島本線と新国一である。この流路を変更して河口江。幅は三十一六十メートルあるので河口から三百五十メートル付近で締め切り、川は国道三号線の下に長さ百三十メートル(内径四、五メートル)の排水トンネルを掘り、月の浦海岸に流し、一万六千五百平方メートルの土地を造成する。総工費は約九千万円。

排水トンネルは昨年十二月初めに四千五百平方メートルで竣工された。今後はトンネル内部のコンクリート巻き立てなどが行なわれる。完成するのは四月末ごろになる見込み。

護岸工事を急ぐ坂口川河口埋め立て予定地



また第一岸壁付近の港内しゅんせつ工事(県営)も再開される。しゅんせつ泥土は、同河口の埋め立てにあてられる一石二鳥の計画で、土庫造成予定地には護岸工事も急がれている。

この造成地には大草五蔵の開通に伴って、本渡―水俣間に大型航送船運航の計画があるため、これ

に備えて可動橋を持つ大型フェリー基地を造るのをはじめ、大瀬集場、食品加場、船舶整備施設、バスターミナルなどが計画されている。